

取手アートプロジェクトより、今秋～冬のピックアップニュース 3 件をご案内します。

## —News 1—

# アート NPO が運営する学食、「藝大食堂」。 コロナ禍のクローズを経ての 10 月の再開から 「値段をつけるのをやめてみました」。

「食べて芸術を応援できる」ことをひとつのテーマにして運営してきた藝大食堂（特定非営利活動法人取手アートプロジェクトオフィスが東京藝術大学から施設管理を受託し運営）。コロナ禍にあって、さらにその応援の仕組みを具体的にしていくため、食堂側が値段をつけるのを辞める実験をはじめました。現在、食堂を利用する全ての方に、ご自身でその日いくら払うかを決めていただいています。利用する方が値段を決めるためには、「一食のごはん」が口に入るまで、こういった手間と費用を経ているのかを考えなくてはならず、手間ではありますが、コロナ禍を経て、「芸術を支える食堂」として、利用する方が運営の一端を担う仕組みに切り替えることを決めました。

**若い芸術家に向けて**……制作費を優先してごはんを諦めず、美味しいご飯をおなかいっぱい食べることで、いい作品が作れるように応援していることを伝えています。支払う額は、経済状況がしんどいときは払えるだけで OK。でも安易に安い金額を受け入れるわけではないこと、バイト代が入ったらちゃんと払うなど、ちゃんと理由を持って支払額を決めてもらえるようお願いしています。

**学外の方の関わり方として**……これまでは定価 780 円と学割 560 円の差額が、芸術家の応援として使われる仕組みでしたが、金額設定がなくなることで、食べることでの「応援」がもっとわかりやすくなりました。ただこの仕組みでは、食べる人それぞれの意思表示（金額の決定）が食堂の成立に直結するため、悩まれる方が多くいますが、運営に参加していただいている気持ちで毎日お迎えしています。



「つくれるものは極力手づくり」は変わりません。ただし食材ロスを防ぐためにメニューは「毎日の日替わり 1 種類」にしています。



利用した人は、食事と一緒に渡される封筒に、支払う金額と一言を添えて、施設を出るときに支払います。



愛情を込めて毎日のごはんをつくるスタッフに封筒を手渡します。元気なことを確認するコミュニケーションでもあります。

統括ディレクター：岩間賢（美術家・取手アートプロジェクト《半農半芸》ディレクター）

プロジェクトディレクター：小野寺美穂（クリエイティブディレクター／デザイナー）

運営：特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィス

コロナ禍を乗り越え、食から芸術を支えていくための新しい仕組みをご取材いただければ幸いです。

[本プレスリリースに関するご取材・お問い合わせ](#)

特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィス（担当：羽原）

TEL 0297-84-1874(火・金 13:00-17:00) 担当 TEL 090-4087-8139 tap-info@toride-ap.gr.jp

## 【参考情報】

### ●藝大食堂のこれまで

東京藝術大学取手校地に通う学生のうち、学部1年生が上野に引き上げたことで経営状況が悪化した大学生協から引き継ぎ、2017年夏よりNPO法人取手アートプロジェクトオフィスが運営を開始。《半農半芸》をベースに運営するとともに、食から若い芸術家や芸術活動を支える仕組みとして、地域の方も利用可能に。2018年5月グランドオープン後、「食ること」が芸術への窓口になるよう、日常運営に並走して展示企画やソフトプログラムも実施してきた。2020年2月からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年度前期は学外向けクローズを余儀なくされたが、10月より学外利用も含めて運営を再開している。

<http://geidaishokudo.com/>

### ●取手アートプロジェクト（TAP）とは？

東京藝術大学取手校地に1999年に先端芸術表現科が開設されたことをきっかけに始まった市民・取手市・東京藝術大学が三者協働で行うアートプロジェクト。まちなかでのアートフェスティバルの開催を経て2010年より通年型で郊外のまちならでの取り組み《アートのある団地》《半農半芸》を展開。2017年に藝大食堂が、2019年にたいけん美じゅつ場がスタートし、現在は日常的に芸術にアクセスできる持続可能な仕組みづくりに挑戦している。

<https://toride-ap.gr.jp/>

## —News2—

# 東京藝術大学取手校地にてヤギを飼い、 違う視点で世界につながるアートプロジェクトチーム

## 「ヤギの目」発足、いよいよ12月から藝大にヤギが来ます！



東京藝術大学先端芸術表現科小沢剛研究室と取手アートプロジェクトコアプログラム《半農半芸》が連携し、藝大取手校地の豊かな自然環境を活かしヤギをハブにしたアートセンターづくりを行っていくチーム「ヤギの目」が発足しました。12月初旬に2頭のヤギを迎え、活動が始まります。

ヤギの小屋は小沢剛氏をはじめ、この活動に参加する藝大生らが、取手校地内で手に入る素材（竹や木々、蔓など）を使って毎年つくります。

活動のテーマは、①ヤギと人間との1万年前～現在に至る共存の歴史を、東京藝大取手校地内を自由に歩き回るヤギを通して体

感・想像しながら学ぶこと、②ヤギから生み出される乳や糞等を利用し、食を通じて我々の生活と自然の大きなサイクルの接続を実感すること、③多世代・多様なルーツの参加者（学内外）が上記活動の実施・運営・ヤギの飼育に継続参加する混成チームの発足による、地域の特色あるプラットフォームと、持続可能な芸術表現の場の創出です。

アーティスト：小沢剛（美術家・東京藝大先端芸術表現科教授）、岩間賢（美術家）、菌部秀徳（木工芸作家）ほか

写真：2019年11月24日開催「ヤギを迎えてちょっと先の未来を思い浮かべる会」

## ● ヤギ小屋コンペティション 小屋は目下制作中

取手校地内の密林と化した緑地および地域の放置竹林等を「資源の宝庫」と捉え、そこから切り出された木や生い茂った雑草を、プロジェクト資材(ヤギ小屋の建材、作品制作の材料、ヤギの餌等)として活用。自然に手を入れる環境整備にもなりながら、小屋制作=サイトスペシフィックなアート作品として展開していく。複数の芸術家が各自オリジナルの「モバイル小屋」を制作し、対象エリアに設置する。もちろんコンペの優秀者を決めるのは、人ではなくヤギである。

## ● プロジェクトチーム「ヤギの目」構成メンバーについて

本プロジェクトの実施団体は次のメンバーから構成されており、世代、立場さまざまなメンバーが活動に関わる。

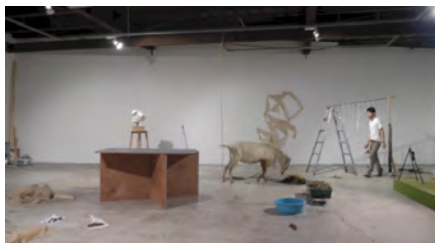
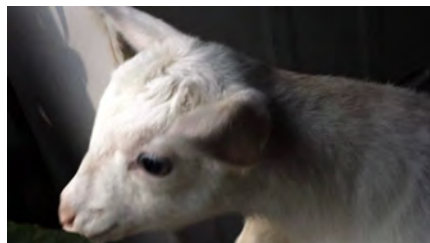
- 1) 東京藝術大学取手校地で学ぶ学生を中心とした芸術家(小沢剛(美術家)、東京藝術大学小沢剛研究室学生と取手校地で制作する有志学生・教員等)
- 2) 取手校地内で藝大食堂(学外利用可能な食・展示発表の機能を備えた施設)および環境整備事業を運営するTAPコアプログラム《半農半芸》チーム(岩間賢、特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィス)
- 3) 活動に共感し参画する地域住民(10代未満~80代)

飼育指導・協力: 安江健(茨城大学農学部食生命科学科教授(家畜行動学))

## ● ヤギにまつわる展示 藝大食堂で開催中

食品サンプルケースを活用して若いアーティストたちの活動を紹介することからはじまった「ショーケース」および「ショーケース in the Screen」企画も、藝大食堂とともに再開。現在はいよいよこの冬迎えるヤギたちに寄せて、展示と上映が行われている。

- ・会期 2020年11月4日(水)~12月18日(金) 10:00-17:00 ※最終日は15時まで
- ・会場 藝大食堂(茨城県取手市小文間5000 東京藝術大学取手校地内)



ショーケース#021.  
ヤギの目(やぎのめ)《ヤギのための小屋のマケット》

写真左: 実際に取手校地に12月にやってくる子ヤギの「ムギ」

写真右: ショーケース in the Screen(映像作品上映)  
中野 岳(なかの・がく)《山羊に神話を聞く》

## ● ヤギプロジェクト これまでの経緯

2018年 東京藝術大学取手校地を舞台としたヤギをめぐるアートプロジェクトを小沢剛・岩間賢構想・リサーチ着手

2019年 9月~ チームコアメンバー集め開始

2019年 11月 ヤギおよび講師招聘による取手校地での生育環境/条件等リサーチ、パイロットプログラム開催「ヤギを迎えてちょっと先の未来を思い浮かべる会」(主催:取手アートプロジェクト実行委員会)

2020年 1月~9月 環境整備活動によるヤギ居住エリアの整備(樹木伐採等)、作品のためのリサーチ

2020年 9月27日 譲り受ける予定の子ヤギ誕生

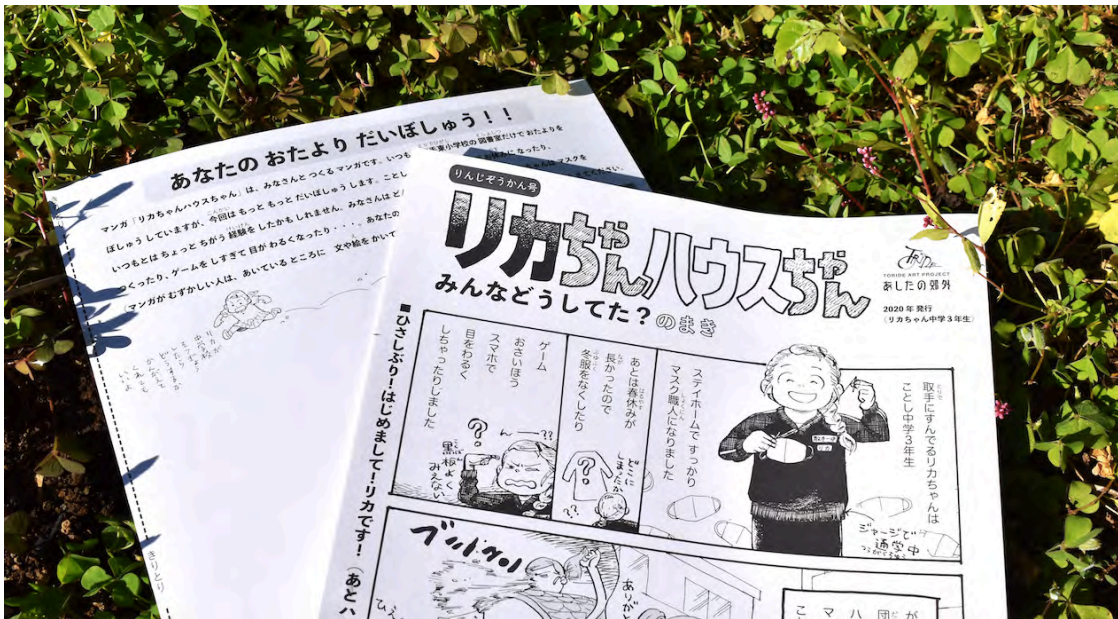
2020年 10月~11月 ヤギ小屋作り、重機整地作業

2020年 10月29日 チーム名「ヤギの目」決定

2020年 12月 ヤギを取手校地内に迎え入れ、飼育開始(予定)

—News3—

リカちゃんハウスちゃん臨時増刊号、発行  
コロナ禍を経験している児童・生徒の  
体験をキャッチする試みとして  
市内公立全小中学校におたよりが届いています



取手アートプロジェクト《アートのある団地》では、2011年から取手井野団地およびその学区の小学校で、マンガ「リカちゃんハウスちゃん」の連載が現在まで続いています。とある春の日に、トラックに乗って井野団地に引っ越してきた女の子リカちゃんと、その保護者ハウスちゃん。アーティストが地域で会う人から聞いた話から次のストーリーが生まれる形式で展開してきたこのおはなしの主人公であるリカちゃんは、小学校入学、学校の統合による編入学、小学校卒業を経て、現在同市内の中学校3年生になっています。いまの時代に暮らす誰もが経験している新型コロナウイルス感染症がひろがってからの生活をリカちゃんハウスちゃんも送っているようです。

学校でのこと、普段の生活のことを尋ねるおたよりが取手市内の全公立小中学校、また公共施設に届いています。この取組にみなさんが返してくれたおたよりは、2021年2月に取手駅前拠点「たいけん美じゅつ場（アトレ取手4F）」でご紹介予定です。ぜひより多くの方にご参加いただけるようご取材のご協力をお願いいたします。

アーティスト：宮田篤+笹萌恵 協力：取手市立取手東小学校

※ リカちゃんハウスちゃんのこれまでもわかる、おたより本紙を別添しております。ぜひご覧ください。

本プレスリリースに関するご取材・お問い合わせ

特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィス（担当：羽原）

TEL 0297-84-1874(火・金 13:00-17:00) 担当 TEL 090-4087-8139 tap-info@toride-ap.gr.jp